



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学総合博物館ミュージアムマイスター：認定コースのご案内
Author(s)	北海道大学総合博物館ミュージアムマイスター事務局
Citation	2014年度
Issue Date	2014
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/55283
Type	book
File Information	MuseumMeister_2014.pdf





MUSEUM MEISTER
— HOKKAIDO UNIVERSITY —

北海道大学総合博物館
ミュージアムマイスター事務局

〒060-0810
札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学総合博物館2階 研究支援推進員室
TEL&FAX: 011-706-4704 内線(4704)
開室日時: 火～金 10:00～16:00

www.museum.hokudai.ac.jp

GUIDEBOOK

The Hokkaido University Museum

MUSEUM MEISTER

北海道大学総合博物館

ミュージアムマイスター

認定コースのご案内

2014年度

- 01 キミもマイスターをめざそう！
- 02 ミュージアムマイスター
認定コースの概要
- 03 開講科目一覧
- 04 開講科目の紹介
- 06 特集
「マイスターに聞いてみよう！」
- 08 登録申し込みについて

マイスターとは「巨匠、達人、師匠、匠^{たくみ}、親方」といった意味のドイツ語です。日本語にする
と語感はずいぶん異なりますが、その道をきわめ
たプロに対する尊敬を込めた称号です。
ミュージアムマイスターは、しかしながら、
道をきわめる必要も、プロである必要もあ
りません。肝心なのはむしろ、何でも見て
やろうという旺盛な好奇心と、アマチュアと
しての新鮮な視点です。平成21年度から認
定コースがスタートして、今日までに21名の
マイスターが誕生しています。マイスターは
博物館に限らず、学内外のイベントでの司会
進行をはじめ、いろいろな形で活躍してい
ます。

大学での勉強では、自分の専門分野を深め
ることとやらんで、専門外の分野にも関心
を持つて視野を広げることが重要です。北大
の教育理念である「フロンティア精神」「国
際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」とは、
まさにそのような人材の育成をめざすもの
です。博物館を「知のフィールド」として、
学生生活の目標にマイスターというプラス・
アルファを掲げてみませんか？



北海道大学総合博物館長
津 曲 敏 郎

キミもマイスターを
めざそう！

ミュージアムマイスター 認定コースの概要

「ミュージアムマイスター認定コース」とは、課題探究能力、協調性と自主性を備え、問題解決能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力を持ち、自己評価の視点を身に付けた北大生を認定する教育システムです。シラバスの中から、北大総合博物館が認定した科目を履修し、さらに、博物館が主催するプロジェクトや講座に参加して、必要なクレジット数を取得し、一定基準の成績を修め、プレゼンテーションを含む面談をクリアした学生を、北大総合博物館長が「ミュージアムマイスター」として認定します。

●受講方法

下記の通り科目種別(A～D)の手続きに従って、受講申請を行ってください。

A

全学教育科目
(総合科目、一般教育演習、主題別科目)

高等教育推進機構・教務課に、指定の期日までに履修届を提出してください。

B

学部専門科目

他学部学生が履修する場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する旨をご連絡ください。(履修は所定の申請を行えば認められますが、卒業認定に関わるかは学部によって異なります。マイスターコースのクレジットは取得することができます。)

C

大学院専門科目・大学院共通授業科目

学部学生も3年生以上は履修可能です。その場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する希望を伝え、了承を得て、ミュージアムマイスター事務局にご連絡ください。(マイスターコースのクレジットは取得できますが、学部学生は単位を取得できないため、履修届を提出する必要はありません。)

D

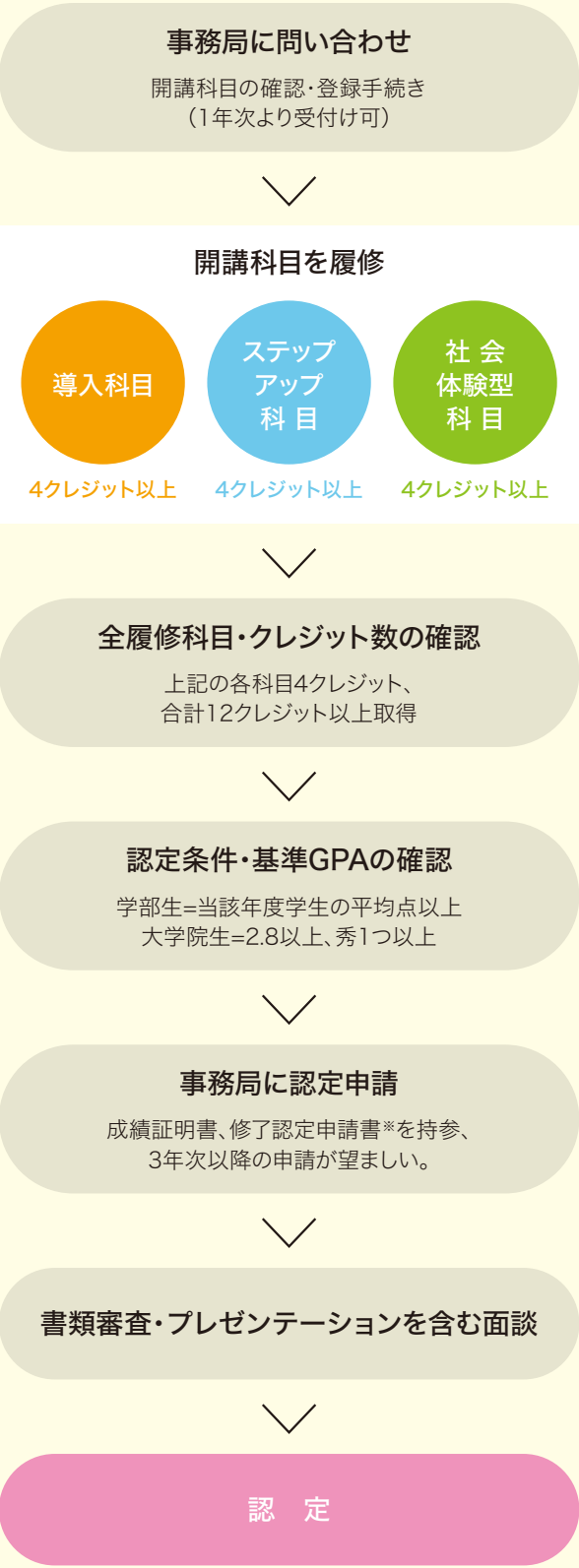
オフカリキュラム・プログラム

通常の授業枠を超えて博物館が独自に開講するプログラムです。内容は、企画展の展示解説やセミナー運営など様々です。受講生は自分の空き時間を利用してプログラムに参加します。博物館独自のプログラムのため、関連情報はシラバスには掲載されていません。卒業認定に関わる単位は取得できませんが、マイスターコースのクレジットは取得できます。受講生募集は、博物館ウェブサイトや構内ポスターで前期・後期に各1回行います。今後の予定などはミュージアムマスター事務局までお問い合わせください。

◎クレジットについて
クレジットはミュージアムマイスター認定コース独自のものです。大学院授業やオフカリキュラムのプロジェクトで認定されるクレジットは、卒業認定に関わる単位とは異なります。また「ミュージアムマイスター認定コース」で必要な科目と「学芸員資格取得」に必要な単位は異なります。

事務局に問い合わせ
開講科目の確認・登録手続き

●認定までの流れ



※ 修了認定申請書は「ミュージアムマイスター 修了認定申請書」で検索、もしくはミュージアムマイスター事務局までお越しください。

開講科目一覧

●下記の科目情報は平成26年3月1日現在のものです。変更になる場合もありますので、開講学期・曜日・時間についてはシラバスも必ず確認してください。

	科目種別	授業名	学期	曜日(時限)	責任教員	クレジット数
導入科目	A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] 生物の多様性	1学期	水曜(5)	柊原 宏	1
	A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] フィールド科学への招待	1学期	金曜(5)	四ツ倉 典滋	1
	A 全学教育科目(総合科目)	[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在	2学期	木曜(5)	山崎 幸治	1
	A 全学教育科目(総合科目)	北大総合博物館でまなぶ「モノ」「コト」「ヒト」	1学期	木曜(5)	江田 真毅	1
	A 全学教育科目(一般教育演習)	北大エコキャンパスの自然と人間: 植物学入門	1学期	木曜(5)	高橋 英樹	2
	A 全学教育科目(一般教育演習)	北大エコキャンパスの自然と歴史	1学期	金曜(5)	高橋 英樹	2
	B 文学部専門科目	博物館概論	1学期	水曜(1)	佐々木 亨	2
	B 文学部専門科目	博物館教育論	1学期	木曜(1)	湯浅 万紀子	2
	B 文学部専門科目	博物館資料論	1学期	金曜(5)	加藤 克	2
	B 文学部専門科目	博物館経営論	2学期	火曜(5)	佐々木 亨	2
	B 文学部専門科目	博物館情報・メディア論	1学期	水曜(5)	高橋 英樹	2
	B 文学部専門科目	博物館展示論	2学期	金曜(5)	山崎 幸治	2
ステップアップ科目	B 文学部専門科目	博物館資料保存論	1学期	火曜(5)	鈴木 幸人	2
	A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] ヒゲマ学入門	2学期	水曜(5)	増田 隆一	1
	A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[1]	1学期	集中	荒木 肇	2
	A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[2]	2学期	集中	荒木 肇	2
	A 全学教育科目(一般教育演習)	地域と大学 北大フィールドセンター施設を活用して地域を学ぶ	1学期	集中	荒木 肇	2
	A 全学教育科目(一般教育演習)	遺跡を探そう	1学期	集中	加藤 博文	2
	A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界	1学期	月曜(5)	吉崎 元章	2
	A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] PMFの響き	1学期	木曜(5)	三浦 洋	2
	A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 美術館という現場	1学期	水曜(2)	北村 清彦	2
	A 全学教育科目(主題別科目)	[歴史の視座] ヒトとは何か: 進化・歴史・文化	2学期	月曜(5)	加藤 博文	2
	B 文学部専門科目	北方人類学演習: フィールドワーク実践 [14]	1学期	火曜(3)	佐々木 亨	2
	B 水産学部専門科目	水圏生物学	1学期	火曜(3~4)	今村 央	2
社会体験型科目	B 水産学部専門科目	魚類学	1学期	月曜(1)	矢部 衛	2
	B 水産学部専門科目	ベントス学	2学期	水曜(2)	五嶋 聖治	2
	B 水産学部専門科目	水族館学	1学期	木曜(3)	河合 俊郎	2
	C 文学研究科専門科目	北方文化論特殊講義: ミュージアムのマネージメント [14]	2学期	火曜(3)	佐々木 亨	2
	C 大学院共通授業科目	博物館学特別講義Ⅰ: 学術標本・資料学	2学期	金曜(5)	高橋 英樹	2
	D オフカリキュラム・プログラム	バラタクソノミスト養成講座(北大で開催するもののみ)	—	随時*	—	0.5~1
	C 文学研究科専門科目	北方人類学特別演習: ミュージアム展示制作と文化 14-1	1学期	月曜(3)	佐々木 亨	2
	C 文学研究科専門科目	人類学特別演習: ミュージアム展示制作と文化 14-2	2学期	月曜(3)	佐々木 亨	2
	C 理学院専門科目	自然史学特別講義4: <のこす>を考える。<のこす>を実践する。	1学期	集中	山下 俊介	2
	C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(各種博物館における展示・教育・活動評価)	1学期	木曜(3)	湯浅 万紀子	2
	C 大学院共通授業科目	博物館学特別講義Ⅱ: 展示・教育・活動評価				
	C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価)	1学期	木曜(4)	湯浅 万紀子	2
	C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論Ⅰ: 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価				
	C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(博物館における映像表現)	1学期	集中	藤田 良治	2
	C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論Ⅱ: 映像表現 夏の陣				
	C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(ミュージアムグッズの開発と評価)	2学期	水曜(4)	湯浅 万紀子	2
	C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論Ⅲ: ミュージアムグッズの開発と評価				
	C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(映像制作とスノーボード)	2学期	集中	藤田 良治	2
	C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論Ⅳ: 映像表現 冬の陣				
	C 大学院共通授業科目	南紀熊野の森林から地域を考える ー原材料採取から商品開発までー	1学期	集中	湯妻 直樹	2
	D オフカリキュラム・プログラム	学生参加プロジェクト(展示制作、展示解説など)	—	随時*	湯浅 万紀子	1~2
	D オフカリキュラム・プログラム	卒論ポスター発表会	—	2月下旬~3月上旬	湯浅 万紀子	2

※ 受講者募集の案内は、北大総合博物館ウェブサイトに掲載されます

開講科目の紹介

導入科目

環境・人間・文化に関する基礎知識を学習する科目や導入的なフィールド体験型科目。
博物館の存在意義や活動についての基礎知識を学習する科目。



全学教育科目(総合科目)

- ・[環境と人間] 生物の多様性
- ・[環境と人間] フィールド科学への招待
- ・[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在
- ・北大総合博物館でまなぶ「モノ」「コト」「ヒト」

全学教育科目(一般教育演習)

- ・北大エコキャンパスの自然と人間：植物学入門
- ・北大エコキャンパスの自然と歴史

文学部専門科目

- ・博物館概論
- ・博物館教育論
- ・博物館資料論
- ・博物館経営論
- ・博物館情報・メディア論
- ・博物館展示論
- ・博物館資料保存論

ステップアップ科目

実物資料の扱い方やフィールドワークの方法を学習する科目や講座。
博物館の活動と運営について理解を深める科目。



オフカリキュラム・プログラム紹介

●バラタクソノミスト養成講座

バラタクソノミスト(準分類学者)とは、学術標本・サンプルを正しく同定し整理する能力を有する者で、環境調査・環境教育において必要とされる人材です。本講座は、生物学分野、地球科学分野、考古学分野等の専門家をサポートする「準分類学者」の養成を目的とする、市民も受講できる講座です。各講座修了者に、「準分類学修了証」を発行します。

昆虫マルハナバチ属 バラタクソノミスト養成講座(中級)

講師：稲荷尚記(北海道大学総合博物館資料部研究員)

札幌近郊に分布するマルハナバチ類の種同定を目的としています。また、マルハナバチ類の生態や人との関わりについての講義を行い、理解を深めていただきます。2013年は小学生や大学生、社会人などが参加しました。講座では、ハチ目全体の系統発生や主な分類群、マルハナバチの特徴などについて学びます。講義だけでなく、マルハナバチの標本を参加者が実際に実体顕微鏡で観察し、オスとメスの区別点、種を見分けるために重要な形質の確認、日本産のマルハナバチ類標本の観察を行います。他にも、北大構内や北大植物園で生きたマルハナバチの野外観察、マルハナバチによって花粉媒介される植物に特徴的な花の形態、他の小型ハナバチ類の行動などの観察も行い、様々な視点からマルハナバチについて学ぶことができる講座です。



岩石バラタクソノミスト 養成講座(初級)

講師：在田一則(北海道大学総合博物館資料部研究員)

岩石がどのように利用されているかの他にも、岩石の分類法の基礎や肉眼による識別法の基礎について実物を使って学び、さらに、岩石を作っている主要な鉱物についても初歩的な事柄を学ぶことを目的としています。2013年は大学生や社会人などが参加しました。講義で、地球の深部構造やプレート運動と岩石の形成の関係、石を作っている主要な鉱物、岩石グループについて、成因や構造鉱物種、粒度などによってさらに細分する方法など基礎的なことを学びます。実技として、上皿天秤を使用する岩石密度の測定方法も学びます。また、博物館内や大学構内で利用されている岩石、博物館で展示している造岩鉱物や岩石標本も観察します。講座の最後に、これまで学んだことをもとに岩石30個の岩石名、入っている鉱物を当てる岩石鑑定クイズが行われます。



他には、昆虫(初級)、岩石(中級・上級)、鉱床(初級・中級・上級)、野外地質見学・採集会、木製品(初級・中級・上級)、魚類(初級)、土器(初級・中級)、海藻(初級)、化石(初級)などがあります。
開催は不定期ですので、北大総合博物館ウェブサイトを確認してください。 <http://www.museum.hokudai.ac.jp/event/article/242/>

全学教育科目(総合科目)

- ・[環境と人間] ヒグマ学入門

全学教育科目(一般教育演習)

- ・フィールド体験型プログラム—人間と環境科学—[1]
- ・フィールド体験型プログラム—人間と環境科学—[2]
- ・地域と大学
北大フィールドセンター施設を活用して地域を学ぶ
- ・遺跡を探索

全学教育科目(主題別科目)

- ・[芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界
- ・[芸術と文学] PMFの響き
- ・[芸術と文学] 美術館という現場
- ・[歴史の視座] ヒトとは何か：進化・歴史・文化

文学部専門科目

- ・北方人類学演習：フィールドワーク実践 [14]

水産学部専門科目

- ・水圏生物学
- ・魚類学
- ・ベントス学
- ・水族館学

文学研究科専門科目

- ・北方文化論特殊講義：ミュージアムのマネージメント [14]

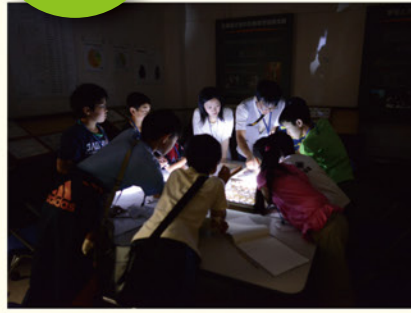
大学院共通授業科目

- ・博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学

オフカリキュラム・プログラム

- ・バラタクソノミスト養成講座(北大で開催するもののみ)

社会体験型科目



文学研究科専門科目

- ・北方人類学特別演習：
ミュージアム展示制作と文化 14-1
- ・人類学特別演習：
ミュージアム展示制作と文化 14-2

理学院専門科目

- ・自然史学特別講義4：
〈のこす〉を考える。〈のこす〉を実践する。
- ・博物館コミュニケーション特論
(各種博物館における展示・教育・活動評価)
- ・博物館コミュニケーション特論
(学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価)
- ・博物館コミュニケーション特論
(博物館における映像表現)
- ・博物館コミュニケーション特論
(ミュージアムグッズの開発と評価)
- ・博物館コミュニケーション特論
(映像制作とスノーボード)

大学院共通授業科目

- ・博物館学特別講義Ⅱ：展示・教育・活動評価
- ・博物館コミュニケーション特論Ⅰ
学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価
- ・博物館コミュニケーション特論Ⅱ 映像表現 夏の陣
- ・博物館コミュニケーション特論Ⅲ
ミュージアムグッズの開発と評価
- ・博物館コミュニケーション特論Ⅳ 映像表現 冬の陣
- ・南紀熊野の森林から地域を考える
—原材料採取から商品開発まで—

オフカリキュラム・プログラム

- ・学生参加プロジェクト(展示制作、展示解説など)
- ・卒論ポスター発表会

博物館の展示や場を活用したプロジェクトの企画・運営・評価に参加したり、学生の実験成果を市民に向けて発信して市民と意見交換したりするなど、学生が博物館での活動を通じて社会とつながる実践と評価を行う科目やプロジェクト。

オフカリキュラム・プログラム紹介

●卒論ポスター発表会

北海道大学を卒業するさまざまな学部が、4年間の研究の成果について大きな1枚のポスターにまとめて発表します。学会での発表とは異なり、市民や他分野の学生にも理解できるようなポスターを作成し、わかりやすく説明することが求められます。事前に中間発表会を行い、教員の指導を受け、発表会に臨みます。



参加者の声

◎発表会に参加することで得たことは、市民の方々に自分の研究テーマを伝えることを前提に、改めて研究テーマに向き合えたことでした。研究内容をより噛み砕いていく過程で、研究テーマの魅力や課題を再認識することができたことは、非常に大きな成果でした。

◎1対1で説明するので、相手に正しく伝わっているのかわかることができ、大変有意義でした。最初はうまく説明できませんでしたが、2日間かけて試行錯誤していくうちに自分の言いたいことを伝えられるようになったと思います。

◎自分自身が研究に対する理解が深くなければならないと実感しました。分かりやすく説明するには専門用語を使用せず、話したいことの根本から理解しなければならないと実感できたことが、今回の発表で得たものだと思っています。

◎他学部の学生と、市民向けのポスターを制作するという過程を共に経験できたことは、とても貴重な経験でした。発表者には理系から文系まで様々な人がおり、お互いの意見を出し合ったり、研究の紹介をし合ったりする中で切磋琢磨し、より研究への意識を高めることができました。

●学生参加プロジェクト

市民に向けた大学博物館関連プロジェクトの企画・制作・運営・評価などに参加します。学生だけではなく、博物館教職員やボランティアと協働することで、コミュニケーション能力やマネジメント能力を養うことを目的としています。授業や普段の学生生活では味わうことのできない、貴重な社会体験の場です。

過去のプロジェクト：常設展「アンモナイトコーナー」の展示制作／「巨大ワニと恐竜の世界」展の展示解説／水産科学館土曜サロンの運営／卒論ポスター発表会の運営／「イザベラ・バードの旅の世界」展の展示解説 他多数



参加者の声

常設展「アンモナイトコーナー」の展示制作

◎わかりやすく誤解のない表現を考えましたが、それを全体のデザインやスタイルと合わせる際に使えなくなることもあり、考えていた以上に展示制作は難しいものでした。また、展示制作者が特に強調したい部分と来館者の方が興味を持って下さる部分とに差異があることなど、多くのことを学べ、とても有意義なものになりました。

卒論ポスター発表会の運営

◎作業はあっという間で、忙しさで大変さに驚きました。しかし、ポスター制作、リーフレット作り、会場設営、どれも一つ一つ細かいところまでこだわって作り上げたものは思い入れ深く、力作となったと思います。一番学んだことは、とことん相手の立場に立つこと。来場される方に分かるように工夫するということでした。これからの日常でも活かしていきたいと思いました。

マイスターに聞いてみよう！

卒業生マイスターインタビュー

卒業生が語る マイスターの魅力



村松 弘規（2012年度 農学院修士課程修了）
国土交通省 国土地理院 測地観測センター 地殻監視課 電子基準点係

知識を得る楽しさ、それを伝える大切さ

私はとにかく自然が好きで、研究室が北大植物園と博物館にあったことを契機に、マイスターコースに参加しました。「バラタクソノミスト養成講座」に何度も参加し、自然を観察する力が大きく伸びました。また、その経験を基に参加した企画展での展示解説や卒論ポスター発表会で、「自分の知識や技術を、分かり易く説明する」ことを学びました。

私は現在、茨城県つくば市にある国土地理院で国家公務員として働いています。理系の公務員にとって、知識・技術は政策と表裏一体であると実感しています。私たちの仕事はそれらを国民や政治家へ正確かつ分かり易く説明し、国の未来を作ることです。私はまだ1年目ですが、国内外から研修で訪れた方へ業務を紹介する機会に恵まれています。人前で話す際の所作やプレゼンの構成、情報の伝え方はマイスターコースで経験した技術が基礎になっています。今後はJICAの研修生への講義やシンポジウムでの発表等を任されることになりそうで、ドキドキしていますが、博物館を通じて得た「人に伝えること」の面白さ・大切さを胸に切磋琢磨したいと感じています。

生物、工業、歴史、民俗、医療・・・博物館には「学部」に囚われない知識が詰まっています。そこに集まる人は「話したい!」「学びたい!」に溢れていて、私も博物館という場で多くの人と出会い、様々な刺激を受けました。ぜひ博物館の活動に参加してみてください。

農学部4年次にマイスターに認定

〔マイスター認定コースで取得した科目〕

- 導入科目：8クレジット
北大エコキャンパスの自然と歴史、博物館概論 など
- ステップアップ科目：4クレジット
バラタクソノミスト養成講座（植物・コケ中級）、キャンパスツアー活動（初・中級） など
- 社会体験型科目：7クレジット
学生参加プロジェクト「生物多様な部屋」展の展示解説、卒論ポスター発表会 など

マイスター Q&A

ミュージアムマイスターに認定された3名の学生に、4つの質問に答えていただきました。学年も研究テーマも異なる学生達の生の声を聞いてみましょう。彼らは博物館内外のさまざまな場で、ミュージアムマイスターとして重要な役割を担い、活躍しています。

沼崎 麻子
理学院博士課程2年



理学院修士1年次にマイスターに認定

〔マイスター認定コースで取得した科目〕

- 導入科目：8クレジット
今、大学博物館が面白い!「物」にこだわる科学、博物館概論 など
- ステップアップ科目：4クレジット
バラタクソノミスト養成講座（植物・中級イネ科）、博物館学特別講義Ⅰ（学術標本・資料学） など
- 社会体験型科目：8クレジット
博物館学特別講義Ⅱ（展示・教育・活動評価）、博物館コミュニケーション特論 など

A1 私は他研究科を修了後に現在の理学院の博物館学研究室に入り、マイスターコースについて知りました。もともと資格を取るのが好きな私。「前に取った学芸員科目の単位もあるし、今の研究室で必要な博物館学の科目をしっかりと履修していけば資格が取れる、なんてお得な!」というちょっと不純な動機で登録しました。しかし今では受講経験を活かし、社会体験型科目を発達障がいのある方の就労支援に応用する研究をしているのですから、わからないものですね。

A2 2010年度の「博物館コミュニケーション特論」です。様々な研究科から集まった7名で、北大生を対象とした写真講習会兼コンペイベント「レンズを通してみる博物館—ケータイカメラの撮り方講座」を企画・運営しました。メンバー全員が、博物館の新たな魅力に気づいてほしい、北大生にもっと来てほしいという思いのもと、とにかく熱く本気で取り組んだ半年間。達成感や結果の他にも、受講経験を通して自分自身を知ることができたことや、最高の仲間を得たことはまさに財産です。

A3 企画展示制作や北大総合博物館のニュースレターの原稿執筆、イベント司会など、様々な活動の機会をいただいています。活動は館外にも拡大し、札幌市の博物館計画検討委員として博物館の現場に携る機会をいただきました。活動の幅が広がることは同時に責任も重くなることではありますが、自分の力を伸ばす貴重な機会として挑み続けています。また、展示解説で学んだ、専門外の方を対象に分かりやすく説明する方法を活かし、学内のポスター発表コンテストで入賞するなど、研究にもコースで培ったスキルを活かしています。

A4 「興味はあるけど、グループ作業が苦手・・・」という方こそぜひ挑戦してほしいです。実は私もそうでした。確かにそれなりの苦労はあります。しかしそれ以上に、今まで気づかなかった自分の強みや社会の仕組みを知ること、自分達の力で博物館や社会を盛り上げるやりがい、思い切って受講しなければ得られませんでした。必要なのは興味と少しの勇気（博物館を盛り上げたいという思いがあればなお可!）、先生方やスタッフの方々、そして私達マイスターも皆さんをサポートしていきます!

マイスターへの質問

- Q1** = 登録のきっかけ
- Q2** = 印象に残った科目と感想
- Q3** = 認定後の活動と感想
- Q4** = 新入生へのメッセージ

太田 菜央
生命科学院修士2年



生命科学院修士1年次にマイスターに認定

〔マイスター認定コースで取得した科目〕

- 導入科目：8クレジット
博物館学Ⅰ、博物館学Ⅱ など
- ステップアップ科目：4クレジット
博物カンカン!（1、2）常識を覆す博物館のみかた、バラタクソノミスト養成講座（化石・初級） など
- 社会体験型科目：4クレジット
卒論ポスター発表会、博物館コミュニケーション特論—ミュージアムグッズの開発と評価 など

A1 総合博物館の先生が学芸員養成課程の授業の中でお話されていたのがきっかけでミュージアムマイスターのことを知りました。もともと博物館の展示や企画に興味があったため、マイスターになることでそれらと関わる機会が増えることを期待して登録しました。また、これまで私が参加した企画や受講していた講義とマイスター認定に必要な単位の多くが一致していたことも、登録の後押しとなりました。

A2 科学ジャーナリストの小出五郎先生を招いての「博物カンカン!」という授業が印象に残っています。その授業では、博物館で行う企画展の内容を自分で考えると同時に、来館者がその展示に対してどのような行動をとったか、何を感じたかをイメージして文章にする作業を行いました。そのような視点から博物館の企画を考えることが新鮮で楽しかったですし、多角的に物事を捉える良い訓練になりました。少人数で（このとき受講していた学生は3人でした）先生の話をはっきり聞いたのも良かったです。

A3 マイスター認定後は、北大総合博物館で開かれた小学生対象のサイエンスパークというイベントの司会進行を務めさせていただきました。ノーベル化学賞を受賞された鈴木章名誉教授、高橋はるみ北海道知事をお招きしてのイベントであり、責任重大な役割に少し緊張しましたが、マイスターにならなければできなかった、貴重で素晴らしい経験となりました。子ども達がとても勉強熱心で、楽しそうに実験に取り組んだり、時には鈴木先生が驚くような難しい質問をする姿が印象的でした。

A4 小さい頃から博物館が好きで、大学でもぜひ博物館や学芸員に関する勉強をしたいと思っていましたが、学生の間にこれほど博物館での企画に参加できるとは思っていませんでした。専門分野の先生だけでなく、小さなお子さんから年配の方まで、一般の方々と幅広く交流が持てたことは私にとって大きな財産となっています。大学生が博物館の活動にこれほど様々な形で関わるができるのは、北大の大きな特色ではないでしょうか。博物館に関心のある方はぜひこの環境を活かして、自分の興味のあることに挑戦していただきたいと思います。

長田 詩織
理学院修士2年



理学院修士2年次にマイスターに認定

〔マイスター認定コースで取得した科目〕

- 導入科目：16クレジット
博物館教育論、博物館資料保存論 など
- ステップアップ科目：4.5クレジット
フィールド体験型プログラム—人間と環境科学—[1]、動物分類学 など
- 社会体験型科目：4クレジット
北方人類学特別演習：ミュージアム展示制作と文化、博物館コミュニケーション特論Ⅰ（学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価） など

A1 学芸員取得を目指して科目を受講しているうちに、自然にマイスターの科目も取得できていたというのが、はじまりです。博物館に関連した科目は、ユニークなものも多く、それらにも興味があって色々を受講していました。選べる科目数は多く、どれも面白い内容の授業なので、無理なくクレジットを取得できたと思います。登録にあたっては、先生から薦めていただき、先輩や友人には既にマイスターに認定された方がいたので、自分自身も登録に踏み切りました。

A2 「博物館コミュニケーション特論Ⅰ」の科目が印象深いです。グループで博物館の課題をみつけ、その解決に臨みました。これらが全て、学生主体。問題発見だけでなく、どうしたら解決できるか、そして、実際には何をやるかなど、講義形式の授業とは全く違う取り組みをしなければいけませんでした。私のグループでは、博物館の案内板作りに取り組みました。教員へのプレゼンや、看板の業者と打ち合せを行うなど、授業を越えた経験ができたと思います。結果的に予算の壁にぶつかり計画は断念されましたが、この授業には社会に出ても役立てられる学びが沢山ありました。

A3 ノーベル化学賞を受賞された鈴木章名誉教授をお招きして開催されたイベントの司会進行を務めました。鈴木先生だけでなく高橋はるみ北海道知事も参加され、とても豪華なゲストの方々に直接お会いすることができました。司会進行にあたり、事前の打ち合せでは運営スタッフとスムーズな進行のための意見を交わし、当日はイベント参加者の反応を見ながら臨機応変に行動するなど、イベントの大きな役割を任せていただきました。マイスターとして恥ずかしくない振る舞いを目指しましたが、緊張で声が上擦ったことを覚えています。

A4 まずは、興味のある科目を1つでも受講してみませんか?気になる科目を次々受講していくとマイスターのクレジットは自然に取得できるかもしれません。ところで皆さんは北大に博物館があることを知っていましたか?私は理学院の博物館学研究室の所属なので、博物館は身近な場所です。新入生の皆さんも自分の大学の博物館である北大総合博物館へ度々足を運んでみませんか?

登録申し込み について

右の登録申込書をコピーするか、
北大博物館のウェブサイト
(<http://www.museum.hokudai.ac.jp/education/index.html>)
からダウンロードし、以下の記入例を参考にして、
必要事項を記入してください。

※注意事項

黒のボールペン、またはサインペンではっきりと記入してください。
書き間違い、記入漏れ等がないか、もう一度しっかりと見直してください。

ミュージアムマイスター認定コース

登録申込書

ミュージアムマイスター事務局　行

私は、ミュージアムマイスター認定コースに下記の通り登録を申し込みます。

フリガナ
氏名

ホクダイロウ
北大太郎

〒060-0810 フリガナ
札幌市北区
道庁先住所
キタ10ジョウ ニシ8チヨウメ ホッカイドウドイダグク
北10条西8丁目 北海道大学

申し込み年月日

平成26年 4月 20日

生年月日

昭和(平成)7年 12月 1日

性別

(男)・女

学部・学年

文学部 1年

学生番号

00000000

電話番号

011-706-4704

Eメールアドレス

taro@museum.hokudai.ac.jp

整理番号

メールアドレスには、なるべくPCメールのアドレスを記入してください。メールアドレスは、ハイフン、アンダーバー、ドット等をはっきりと記入してください。

科目名の左側の欄に、該当するマークを記入してください。
該当する科目がない場合には、未記入でも構いません。

既に履修した科目＝○
現在履修している科目＝◎

履修科目について

リーフレットを参考に履修科目の左側の欄に、該当するマークを記入してください。
既に履修した科目＝○　現在履修している科目＝◎

導入科目	ステップアップ科目	社会体験型科目
[環境と人間] 生物の多様性	◎ [環境と人間] ヒグマ学入門	[北方人類特別演習： ミュージアム展示制作と文化 14-1]
[環境と人間] フィールド科学への招待	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[1]	[人類学特別演習： ミュージアム展示制作と文化 14-2]
○ [人間と文化] アニサ・先住民研究の現在	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[2]	[自然史学特別講義Ⅳ： (のこす)を考える。(のこす)を実践する。]
北大総合博物館でまなぶ「モノ」「コト」「ヒト」	地域と大学 北大フィールドセンター施設を 活用して地域を学ぶ	[博物館コミュニケーション特論 (各機関博物館における展示・教育・活動評価)]
北大エコキャンパスの自然と人間：植物学入門	遺跡を探そう	○ [博物館学特別講義Ⅱ：展示・教育・活動評価]
北大エコキャンパスの自然と歴史	[芸術と文字] 学芸員から見た美術の世界	[博物館コミュニケーション特論 (学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価)]
博物館概論	◎ [芸術と文字] PMFの書き	[博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価]
博物館教育論	[芸術と文字] 美術館という現場	○ [博物館コミュニケーション特論 (博物館における映像表現)]
博物館資料論	○ [歴史の視座] ヒトとは何か：進化・歴史・文化	[博物館コミュニケーション特論Ⅱ 映像表現 夏の陣]
◎ 博物館経営論	北方人類学演習：フィールドワーク実践 [14]	[博物館コミュニケーション特論 (ミュージアムグッズの開発と評価)]
博物館情報・メディア論	水圏生物学	[博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価]
博物館展示論	魚類学	[博物館コミュニケーション特論 (映像制作とスローモーション)]
博物館資料保存論	ベントス学	[博物館コミュニケーション特論Ⅳ 映像表現 冬の陣]
	水族館学	[南紀熊野の森林から地域を考える ー原材料採取から商品開発までー]
	北方文化論特殊講義： ミュージアムのマネージメント [14]	[学生参加プロジェクト ()]
	博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学	[卒論ポスター発表会]
	パラタクソノミスト養成講座	

システム管理者記入欄

認証年月日

平成 年 月 日

登録番号

必要事項を記入した登録申込書を持参のうえ、
ミュージアムマイスター事務局に提出し、登録手続きを行ってください。

北海道大学総合博物館
ミュージアムマイスター事務局

〒060-0810
札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学総合博物館2階 研究支援推進員室
TEL & FAX: 011-706-4704 内線(4704)
開室日時: 火～金 10:00～16:00

ミュージアムマイスター認定コース

登録申込書

ミュージアムマイスター事務局 行

私は、ミュージアムマイスター認定コースに下記の通り登録を申し込みます。

氏名	フリガナ		申し込み年月日					平成	年	月	日			
			生年月日					昭和・平成	年	月	日			
連絡先住所	〒		フリガナ		性別							男	・	女
					学部・学年									
					学生番号									
					電話番号									
					Eメールアドレス									

履修科目について リーフレットを参考に履修科目の左側の欄に、該当するマークを記入してください。

既に履修した科目＝◎ 現在履修している科目＝○

導入科目	ステップアップ科目	社会体験型科目
[環境と人間] 生物の多様性	[環境と人間] ヒグマ学入門	北方人類学特別演習: ミュージアム展示制作と文化 14-1
[環境と人間] フィールド科学への招待	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[1]	人類学特別演習: ミュージアム展示制作と文化 14-2
[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[2]	自然史学特別講義4: 〈のこす〉を考える。〈のこす〉を実践する。
北大総合博物館でまなぶ「モノ」「コト」「ヒト」	地域と大学 北大フィールドセンター施設を 活用して地域を学ぶ	博物館コミュニケーション特論 (各種博物館における展示・教育・活動評価)
北大エコキャンパスの自然と人間: 植物学入門	遺跡を探そう	博物館学特別講義Ⅱ: 展示・教育・活動評価
北大エコキャンパスの自然と歴史	[芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界	博物館コミュニケーション特論 (学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価)
博物館概論	[芸術と文学] PMFの書き	博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価
博物館教育論	[芸術と文学] 美術館という現場	博物館コミュニケーション特論 (博物館における映像表現)
博物館資料論	[歴史の視座] ヒトとは何か: 進化・歴史・文化	博物館コミュニケーション特論Ⅱ 映像表現 夏の陣
博物館経営論	北方人類学演習: フィールドワーク実践 [14]	博物館コミュニケーション特論 (ミュージアムグッズの開発と評価)
博物館情報・メディア論	水圏生物学	博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価
博物館展示論	魚類学	博物館コミュニケーション特論 (映像制作とスノーボード)
博物館資料保存論	ベントス学	博物館コミュニケーション特論Ⅳ 映像表現 冬の陣
	水族館学	南紀熊野の森林から地域を考える ー原材料採取から商品開発までー
	北方文化論特殊講義: ミュージアムのマネージメント [14]	学生参加プロジェクト ()
	博物館学特別講義Ⅰ: 学術標本・資料学	卒論ポスター発表会
	バラタクソノミスト養成講座	

システム管理者記入欄 認証年月日 平成 年 月 日 登録番号

